

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4270103726		
法人名	医療法人 秋桜会		
事業所名	医療法人 秋桜会 グループホーム新港		
所在地	〒851-2211 長崎県長崎市京泊3丁目30番3号 (電 話) 095-850-6866		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年11月26日	評価確定日	平成20年2月8日

【情報提供票より】(19年 10月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 10 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤 21 人, 非常勤 3人, 常勤換算	20 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	6 階建ての 2 階 ～ 4 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	13,500円
敷 金	有 (円) ③無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ③無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者人数	26 名	男性 5 名	女性 21 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	12 名	要介護4	8 名
要介護5	3 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.9 歳	最低 96 歳	最高 70 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長崎新港診療所・こんどう整形外科・山崎歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

併設診療所が母体である当ホームは、平成15年10月に開設された。先に開設されたグループホームコスモス1及2での、入居後の入院患者の生活向上が目指ましく、入院よりもという患者さんも多い事から増設されている。医療ニーズがある方も積極的に受け入れられ、ご家族にも病院とタイアップで安心と信頼が厚い。職員は「安心で、その人らしい暮らしを真心でお手伝いする」との理念のもと、できることには手を出さず、できない時に支援をと自立支援・入居者本位を目指し、質の向上に意欲を持って取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 理念は見やすく、わかりやすく改定されているが、地域の中でその人らしく暮らしていく為の検討までには及んでいない。入居者の過去の生活歴・思いや意向の把握については、現在努力の過程にある。更に充実し、入居者の潜在能力への触発、エンパワメントの促しにつなげられるよう期待する。気軽に入れる玄関周りにおいては、無機質な感じが否めず、併設デイサービスとも協働し、地域の方々も、明るく気軽に訪れやすくなるような工夫が望まれる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前回の改善項目は改善計画シートを作成し、計画的に改善されている。自己評価は、ミーティングのとき、全職員で時間をかけて取り組んでおり、自己評価に取り組むことで、評価の意義と目的が、それぞれの職員に理解されている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議では、H18年度活動報告、次年度事業計画、外部評価結果及び改善計画などが議題に上げられている。市の係長の出席があり、質の向上に関する貴重な意見が出されている。評価結果と共に、更なる改善の工夫に期待する。現在、参加メンバーには、地域の代表の参加がなく、今後は、理解と協力をもって参加メンバーになってもらえるよう、自治会・老人会・婦人会・子供会等、積極的な働きかけに期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 職員の接遇面などのアンケートがとられ、委員会等で検討されている。敬老会や食事会など単発的には、ご家族が集まる機会があるが、ご家族の意見がまとまるような家族会はなく、ご家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組み作りが望まれる。又、近況報告や、広報などには、いつでも気軽に意見が言ってもらえるような促しの一文の挿入や何時でも相談できるような雰囲気作りの工夫が望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の小学校の運動会への参加に入居者は楽しく参加し、お礼状のやり取りに至るなど、新たな交流が始まっている。又、中学校の体験学習の受け入れなど、地域との交流を意識して、できるところから取り組んでおられる。更に、自治会加入を探るなど、共に暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や、役割を担っていく努力に期待する。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は全職員で「安心したその人らしい暮らしを、真心でお手伝い」とわかりやすく覚えやすいように改定されていた。ただ地域密着型サービスの役割と意義についての検討までには及んでいない。	○	改定された理念に加え、入居者が、地域の中でその人らしく暮らし続ける事を、支えていくサービスとしての、役割と意義を全職員が理解し、果たすべき内容を検討し、理念に盛り込むことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、月1回のミーティング時に唱和され、日々のケアに振り返りとして実践している。職員は、真心のこもった、思いやりの心を持って日々のケアに励んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域と繋がりながら暮らしていく事のまず手始めとして、地域の小学校の運動会への参加、中学校の体験学習の受け入れ等取り組んでいる。小学校の運動会参加依頼から始まった一連の流れは、地域学習の一環として受け入れられ、相互交流の足がかりとなっている。しかし、自治会活動への参加には至っていない。	○	共に暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割を担っていくためにも、自治会活動参加に期待する。又、運営推進会議のメンバーにもなってもらい、例えば囲碁の好きな入居者のボランティアを探るなど、事業所と地域の人々が支えあうような双方関係の構築が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングの時に時間をかけて、全職員で、自己評価に取り組んでいる。又、評価の意義と目的については理解し、前回の改善項目についても計画的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自己評価、外部評価、改善点、改善策等報告し、意見の聴取がある。出された意見については、できるところから取り組むなど、質の向上に意欲的である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	レセプト提出時など統括本部長が、市窓口へ赴き体制の見直し等、市担当者と直接話すようにしている。又、市の介護相談員派遣事業を積極的に受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1度、入居者の外出時の写真や、預かり金の領収書、広報などと共に、近況報告書がご家族宛に郵送されている。近況報告書には、日頃の様子や、体調の変化等が伝えられており、状態変化時の連絡も密である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員の接遇面でのアンケートが取られている。昨年は敬老会、食事会などの折、意見を聞きだす機会があったが、今年は人員の都合もあり開かれていない。	○	ご家族だけで話し合う時間も盛り込まれた家族会を設けたり、広報・近況報告書・パンフレット等に、「お気軽にご相談、ご意見いつでも対応いたします」等の文言を入れるなど、ご家族が意見を言いやすくする取り組みに期待する。又、出された意見に対し、どのように検討・対応したかの報告を広報等でお知らせすることに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、退職については、入居者への影響がなるべく少なくすむような配慮がある。職員の異動はご家族へも伝えられ、次長、管理者、事務職の介護資格者の応援があり、新人が慣れるまで1ヶ月半くらいは慣れた職員と共に対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	主に管理者へのリーダーシップ・経営管理面での研修が検討されている。法人内での各委員会が毎月あり、報告がなされている。しかし、パート職員も含め年間を通しての研修計画は立てられていない。	○	主任研修や、管理者の経営管理研修には、期待が大きく更なる質の向上に期待する。研修は年間を通して、計画的に、明確な目標のもと企画する事が望まれる。特に認知症の理解とケアについては、職員の要望が多い。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市グループホーム研究会では、管理者対象の交流がある。職員は外部研修の機会に、交流している。しかし、必要に応じ、他のグループホームの見学交流等検討しているがまだ至っていない。	○	同業者ネットワークを通じるなどし、管理者や、職員の他事業所訪問がスムーズに行くよう積極的に推進し、同行訪問、もしくは交換研修などにより、他事業所との交流で、質の向上の相互研鑽に期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に必ず面談し、できれば見学に来てもらっている。法人内のデイサービス利用者が入居になった時は、始めのうちはデイサービス職員に面会に来てもらうなど、馴染みやすくする配慮がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が「ありがとう」といつてくれた時などに職員は、やりがいと生きがいを感じている。又、干し柿作り等、昔ながらの知恵を伝授してもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	法人内の他グループホームの事であるが、普段、車椅子の方が、畑に行ったら立って歩き、率先して芋の植え付けをされたと広報紙で紹介されている。この方の歩ける力や秘めている力を引き出す取り組みがもっとあるのではないかと気づくまでに及んでいるとは言い難い。	○	職員全員が一人ひとりの意向や思いについて関心を払い、把握しようと努める事が大切で、ご本人がどのように暮らしたいか、何をしたいか、どのようにしたら喜ぶか、キャッチするアンテナを常に磨き、瞬間の気づきをアセスメントに記録し、積み重ねていながら、その人らしい暮らしの支援に繋がることに期待する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のケアは実践しているが記録に落としていない事例が見受けられる。センター方式のアセスメントが、まだ十分に活用されているとは言えず、介護計画へ反映されるまでに至っていない。	○	改定に取り組んだセンター方式のアセスメントの定着に期待する。又、思いや意向の把握と、気づきの記録の積み重ねを、職員間で共有し、検討された介護計画で、その方の潜在能力を引き出し、エンパワーメントの活力に繋げられるよう期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しが行われている。状況に応じ、PT、OTのアドバイスを受けたり、変化の状態に応じご家族の要望等取り入れながら、見直しがなされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	診療所併設で医療連携体制が整えられている。法人内の、診療所、PT、OT、栄養士、看護師等とのこまめな連携がある。短期利用共同生活介護が体制的に強化されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には法人内診療所受診だが、今までのかかりつけ医(内科、精神科、耳鼻科)への受診には、同行支援している。又、歯科医の往診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書の看取りの指針が入居時などに説明されている。しかし、終末期における医療処置の対応などについてや支援の具体的内容等、話し合った意思確認書での共有までには至っていない。	○	ご本人や家族がどのようにして看取られたいかを記録し、終末・看取りの介護方針への同意書と共に準備しておく事が望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	前回の改善項目の失禁を連想させるような予防着は目に触れないところで管理されるなど、改善されており、トイレへの声かけは静かにさりげなくなされていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはある。しかし、職員に余裕がなく、まだまだ業務をこなすような事が多く、個人的なアプローチが不足がちに見受けられる。	○	日頃の会話や、声かけ、入浴時のリラックスしたときなどに出されるふとした言葉等、職員は本人の思いや意向を把握する能力を高め、本人のペースを尊重した暮らしの支援につなげていく事が望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の後片付けや、茶碗拭きなど入居者も共にされている場面が見られた。又、食事途中に食べこぼしで汚れたエプロンが取り外され、タオルをかけたがすぐ落ちたりする場面が見受けられた。食器はメラミンの食器が使われている。	○	入居者の状態によっては軽い食器が良いことなどあるかもしれないが、ご家族の協力も得ながら、家庭的な食器への改善に期待する。又、食事中、何枚汚してもよいように、その方の状態に応じて替えのエプロンを用意しておくなど、工夫されることに期待したい。片麻痺の方が片手でスプーンを使用しやすいように食器の選定に配慮する事が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1度の入浴日であるが、毎日でも入浴可能である。希望によっては、毎日、夕方に入浴する方もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	市内見学へのドライブ、地区のカラオケ大会出場への支援、職員製作ベンチのヤスリ磨き、絵画の県展示会への出品の支援をされている。又、ご本人の気持ちに配慮し、居室に電話回線を引き、電話しやすくするなど活力を活かした場面作りがなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1度のペースで、行事的な外出の支援がある。公園散歩、スーパーへの買い物等支援されている。身体状況によっては、外出困難な方もおられる。	○	外出頻度表のようなものを作成し活用するなど、毎日一人ずつでも、1週間に一度は誰もが外出できるよう、支援のあり方の検討に期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけられておらず、帰宅願望の入居者には必ず「それでは行ってきます」と声をかけていかれるのに対して、「〇〇時にタクシーが来るから」というような返答をする事によって、その方の気持ちに寄り添いながらの支援がなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練が行われており、法人内の近隣居住職員による、緊急時体制が整備されている。又、警察・消防機関には名簿・緊急連絡先一覧を定期的に提出し、連携が強化されている。今後は、災害備蓄の検討があると更に良いのではないかと。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は、毎食時チェック表に記録し一日の総量は大まか把握している。その方の状況に応じて、とろみをつけたり、ゼリー状にと形態を変えた支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、季節の飾り付けがされ、畳の位置を変えることによって、コタツから全体が見えるよう配置換えがされている。居室でなくとも、リラックスできる空間が上手に作っており、入居者はソファに寛ぐなど、思い思いに過ごしておられ、前回の改善項目が改善されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇などの愛着があるものが持ち込まれている。ご本人の作品やご家族の写真が飾られたり、暖簾を使い分けたりするなど居心地よく過ごせる居室の支援に繋げている。		